

一般社団法人日本小児看護学会 2025 年度 定時社員総会議事録

【日時】2025 年 6 月 22 日（日）13：00～15：19 【会場】AP 新橋 ルーム D

【出席】

理事：野間口千香穂、平林優子、三宅玉恵、植木慎悟、荒木暁子、加藤令子、来生奈巳子、
西田志穂、二宮啓子、萩原綾子、平田美佳、渡邊輝子

監事：飯村直子、古谷佳由理

選挙管理委員長：西田みゆき

評議員出席者：有田直子、市江和子、伊藤久美、及川郁子、大須賀美智、小川純子、
長田暁子、金泉志保美、鎌田佳奈美、川名るり、河俣あゆみ、草野淳子、
小迫幸恵、込山洋美、今野美紀、塩飽仁、杉浦太一、染谷奈々子、
仁尾かおり、濱田米紀、日沼千尋、藤田優一、古橋知子、松岡真里、横山由美

オブザーバー：浅野みどり、市原真穂、江本リナ、添田啓子、富岡晶子

出席社員数：60 名（会場 38 名 委任状 22 名） 欠席社員数：0 名

【開会】

出席者数の確認

司会の平林副理事長より、13:00 に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員 60 名（2025 年 6 月 22 日現在）のうち、出席者 38 名、委任状による出席 22 名、欠席 0 名であり、定款第 27 条 2 項により評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。

理事長挨拶

2024 年度は新たに将来構想検討 WG を立ち上げた。また、こども家庭庁が設立され、改めて子どもの権利条約に則ったこども施策の理念の明示やデータサイエンスの推進などの動きがある中で、これらの動向を注視しつつ、関連団体との連携推進を行っている。社員総会は、学会運営の中でも大変貴重な位置づけになっている。学会の発展のために評議員のみなさんには忌憚のない意見を聞かせてほしい。

議事録署名人の承認

定款第 29 条により、社員総会の議事録署名人として、鎌田佳奈美評議員、仁尾かおり評議員が推薦された。評議員の 60 名に対して決議を行い、過半数の賛成で承認された。

議長選任

定款第 26 条により、野間口千香穂理事長が議長に任命された。

【報告事項】

1. 理事会報告・2024 年度社員総会報告(p.1)

野間口理事長より資料に基づき報告された。

2024 年度 理事会報告 (p.1)

[第 1 回理事会:2024 年 5 月 11 日(土)Web 会議]

1)繰り越し金の使途の検討を行い、将来構想に向けた WG の立ち上げが検討された。

2)会議運営方法について見直し、審議事項は担当理事が事前に取捨選択することが依頼された。

[第 2 回理事会:2024 年 7 月 5 日(金)大阪国際会議場]

1)学術集会の準備金 200 万円について、2024 年度より返金が不要になることが承認された。

- 2)将来構想 WG を立ち上げることが説明された。
- 3)学会 HP の社員総会資料として財産目録は司法書士に確認し削除することが承認された。

[第3回理事会:2024年10月12日(土)AP品川アネックス(1名 Web 参加)]

- 1)研修の手続き等を事務局へ委託できることが承認された。
- 2)入院しているこどもの家族の付き添いに関する日本小児科学会の回答と見解が公表されたことが報告された。
- 3)理事会時間短縮のための覚書が提案された。

[第4回理事会:2024年12月21日(土)Web会議]

- 1)看護に関するデータベース及びデータサイエンス人材に求められる要件及びニーズに関するアンケート調査(JANA 経由)回答案について検討した。
- 2)「入院中のこどもへの付添いに関する学会の考え方」の最終案が示され、発出が承認された。

[第5回理事会:2025年3月16日(日)Web会議]

- 1)決算の報告と予算案 2024 年度事業報告および2025 年度事業計画案について承認された。
- 2)学会が提示する文書ではひらがなでの「こども」表記を用いることが提案され、承認された。
- 3)COI 申告システムを構築し、COI 管理指針改訂案と細則案が承認された。

2024 年度 定時社員総会報告(p.3)

2024 年 6 月 9 日(日)に AP 品川アネックスで開催した。出席社員数 59 名(会場出席者 40 名、委任状 19 名)、欠席社員数 1 名であった。

【報告事項】

資料を参照とする。

【審議事項】

資料を参照とする。

2.会員動向(事務局) 報告 (p.4)

2023 年度末の合計会員数は 2,322 名、正会員 2,307 名、賛助会員 5 名、名誉会員 10 名であった。2024 年度は正会員入会 242 名、退会 202 名であ

り、40 名の増員であった。地区別の内訳で会員数が一桁の都道府県にはそれぞれの地区での呼びかけが依頼された。

3. 2024 年度事業報告(p.5)

各委員長より、2024 年度の事業報告について資料に基づき報告された。

1)学術集会(p.5)

加藤令子氏(関西医科大学看護学部看護学研究所教授)を会長とし、2024 年 7 月 6 日(土)から 7 日(日)に大阪国際会議場で開催された。2024 年 7 月 19 日(金)から 10 月 31 日(木)に、オンデマンド配信された。テーマは、「多様化・複雑化する社会の中で生きる“こどもの力”を育む」とし、会長講演、特別講演 2 件、教育講演 2 件、シンポジウム 2 件、特別企画、テーマセッション 25 件、一般演題 133 題、英語セッション 10 題、共催セミナー 4 件であった。参加者総数は 1,705 名であった。

2)総務(総務委員会)(p.5)

- ①理事会を 5 回開催、社員総会や会員集会の運営を行った。委員会は理事会前に年 5 回開催した。
- ②学会の運営を行った。
- ③JANA との連携協力、看護協会との連携、学術団体等の後援や共催を行った。

3)学会誌発行・編集(編集委員会)(p.6)

- ①学術誌第 33 巻、第 34 巻の編集・J-STAGE 公開を行った。2024 年は 2023 年 26 編、2024 年、63 編を審査した。採択率は 2023 年が 57.1%、2024 年は 48%であった。2025 年は 6 編投稿(1 件取り下げ)があり査読中である。記載が漏れた事項で、冊子体の第 33 巻学会誌を 12 月 20 日に発行し、2024 年 10 月末までに会員費納入者・企業等に送付したことが報告された。
- ②学会誌掲載論文転載許諾等を行った。
- ③第 34 回学術集会テーマセッションを実施した。
- ④第 34 回学術集会でポスター掲示を行った。
- ⑤第 32 回日本小児看護学会学術集会講演集分より医中誌に登録し、検索可能にした。

⑥第 35 回学術集会より会長講演・特別講演・教育講演の掲載を行う。会員以外の講演者には執筆料を支払うことが理事会で承認された。

⑦投稿規程・査読ガイドラインを改訂した。

⑧著作権の AI 利用に関する契約を行った。

4) 広報（広報委員会）(p.7)

①オンラインで会議を 2 回行った。

②ホームページの更新を 30 件行った。

③メールマガジンの配信を 27 件行った。

④ニュースレター No.63(2024 年 10 月発行)、No.64(2025 年 4～5 月発行予定)を発行した。

⑤コンテンツの利用申請を 1 件行った。

5) 学術・研究推進（学術・研究推進委員会）(p.7)

①委員会は年 4 回とメール会議を開催した。

②第 16 回(2024 年度) 日本小児看護学会研究奨励賞制度は、評議員から選考委員 10 名を選出した。選考で下記の 1 編が受賞論文に決定した。望月浩江, 添田啓子, 田村佳士枝, 他 6 名 (2023): 小児医療施設の看護過程にセルフケア理論を取り入れた教育介入の質的な効果検証, 32, 150-158.

研究奨励賞制度に基づき、研究奨励賞受賞論文および候補論文 4 編をホームページで公開した。

③第 15 回(2025 年度) 日本小児看護学会研究助成は 2 件に決定した。第 16 回(2026 年度)の募集案内を行った。

④第 9 回(2024 年度) 日本小児看護学会川出富貴子国際発表助成は 3 件であった。第 10 回(2025 年度)の募集案内を行った。

⑤第 1 回(2024 年度) 日本小児看護学会大学院生に対する研究助成は博士後期課程大学院生 2 名に決定した。第 2 回 (2025 年度) の広報並びに公募を行った。

⑥第 34 回学術集会の開催に向けて、開催方法の変更の検討、企画、準備、運営の補助を行った。第 35 回、第 36 回学術集会の企画、準備の補助を行った。一般社団法人日本小児看護学会学術集会開催に関する学術集会会長への申し送り事項を改訂した。

⑦第 34 回学術集会において、パネル展示をすると

ともに、研究助成に関する広報チラシを配布した。

6) 小児看護に関する教育（教育委員会）(p.8)

①委員会を対面 2 回、オンラインで 4 回開催した。

②小児看護スキルアップ研修の運営を行った。年間受講者は「小児看護実践基盤コース」396 名、「医療依存度の高いこどもと家族のコース」は 268 名であった。一方、2 コースとも申込後の入金がなく受講に至らないケースがあった。

③第 34 回学術集会でのパネル展示、スキルアップ研修広報を行った。また、e-learning 講義内容の更新、受講者へ調査を行った。早急な修正の必要性はないと判断した。受講後アンケートは、e-learning 終了直後に実施できるようシステムに実装の見込みである。

④第 34 回学術集会テーマセッションを実施した。第 35 回学術集会テーマセッションの準備中。

⑤日本小児神経学会主催「第 22 回医療的ケア研修セミナー」が開催され、共催した。

7) 小児看護に関する倫理検討（倫理委員会）(p.11)

①委員会は 14 回のうち 1 回対面で開催した。その他は Zoom にて開催した。

②JSCHN34 にて委員会活動や歴代委員会作成の指針の活用と周知のためパネル掲示を実施した。

③JSCHN34 にて「こどもと親の意向が異なるとき、あなたならどうしますか？」というテーマでテーマセッションを実施した。

④2025 年 2 月 9 日に「ありのままのキミでいられるために～いま、看護職にできること～」というテーマで、2 名の講師を招いた第 1 回倫理委員会企画研修をウェビナーオンラインで実施した。

⑤委員会として「病気や障害をもつこどもたちの生活、守られていますか？」というテーマでのウェブ質問紙調査を実施しており、現在データ分析中である。

⑥第 30 回日本臓器移植関連学会協議会に委員会代表として参加した。

8) 小児看護政策に関する検討（小児看護政策委員会）(p.12)

①委員会4回、Slackによる意見交換を実施した。

②小児看護に関する政策提言に向けて、「成人患者との混合病棟における子どもの療養環境向上のための具体的対策(提言)」を第34回学術集会でパネル発表した。第35回学術集会セミナー企画を実施する。また、こども家庭庁の動向、診療報酬改定による現場へのインパクト等について情報共有した。

②高度実践看護の役割の明確化に向けて、第34回学術集会でテーマセッションを行った。第35回学術集会テーマセッションを検討している。

③健やか親子21(第2次)推進協議会等での参加団体としての活動を行った。

④日本医療事故調査支援センターへの協力を行った。医療事故個別調査部会の派遣依頼の対応は、2023年度以前の3件が終了した。2024年度は5件(6名)で、専門性の高い看護師に内諾を得ることができた。また、協力学会説明会等へ出席した。

9)小児看護関連診療報酬検討(診療報酬検討委員会)(p.13)

①委員会をオンラインで6回開催した。

②令和8年度診療報酬改定に関する活動を行った。令和8年度診療報酬改定要望書について、成人移行期支援に関すること、呼吸ケアチーム加算の算定に関することについて関連学会等と取り組んだ。

②診療報酬関連の委員会等に参加し活動した。

③第34回学術集会テーマセッションを実施した。第35回学術集会テーマセッションを行う。

④小児慢性機能性便秘症診療ガイドライン作成委員会、看護系学会等社会保険連合に参加した。

⑤診療報酬に関連した研究を実施した。

⑦小児看護 2025年3月号に診療報酬検討委員会による特集号を企画した。

10)国際交流(国際交流委員会)(p.15)

①2025年3月~2026年開催の小児看護関連の国際カンファレンスの紹介を学会HPで配信した。

②第34回学術集会で広報パネルを展示した。

③第34回学術集会で「川出富貴子国際発表助成対象者ポスター」を展示した。

④第34回学術集会テーマセッションを開催した。

⑤2024年度研修会をオンラインで行った。

⑥国際交流委員会申し合わせ事項の検討を行った。

⑦Asia Pacific Paediatric Nurses Association (APPNA) 理事会へ参加した。

⑧第8回アジア太平洋小児看護学会(APCPN)へスピーカーとして参加した。

⑨世界看護科学学会(WANS)加盟学会・団体代表者会議へ参加した。また、2025年WANSカンファレンスの査読者を推薦した。

⑩委員会を対面1回、オンラインで3回開催した。

11)災害対策(災害対策委員会)(p.16)

①委員会をオンラインで5回開催した。

②第34回学術集会テーマセッションを開催した。

③日本小児救急医学会と「小児周産期医療従事者向け災害医療研修会」を開催した。

④災害支援事業助成を実施した。第6回(2025年度)助成金申請事業の選考(採択2件)を行った。

⑤学会HPの災害関連情報の点検を行った。

⑥「災害対策マニュアル」の見直しを行った。

⑦関連団体との連携を行った。

12)利益相反管理(利益相反委員会)(p.17)

①COI管理申告システムを構築し、マイページから申告し、学会事務局で保管・管理する。

②利益相反管理指針の改訂を行った。

13)選挙管理(選挙管理委員会)(p.18)

①委員会は4回開催した。

②選挙実施のスケジュールやWeb投票の内容について検討し事務局と調整した。

③選挙告知および、投票率向上のためのポスターやチラシを作成し広報を行った。

④評議員選挙をWeb投票により実施し、開票と評議員候補者への承認依頼を行った。

⑤理事・監事選挙を郵送投票により実施し開票と理事・監事候補者へ承認依頼を行った。

14)災害対策マニュアル改訂(災害対策委員会)(p.19、p.47)

⑤災害対策マニュアルを見直し、改訂版を作成し

た。※別添資料あり(別添1)

2013年に初版が作成されたが、国や関係団体における災害支援の体制や事業が整備されてきたことに伴い、学会の対応は情報収集・提供が主となっているため、それに合わせて改訂した。

関係団体(四者協、災害時小児周産期リエゾン連絡協議会、PEACE等)との連携を新たに記載した。

学会員の中から災害支援等の経験と知識を有する「災害対策連携協力会員」を任命し、災害対策委員会と連携することを新たに記載した。

災害発生時における学会内の情報収集・提供は、被災地を含む地区を中心とすることとした。

15)将来構想検討(将来構想検討WG)(p20、p.59)
会議をオンラインで5回開催した。※別添資料あり(別添2)

1)小児看護の専門性の発信、2)学会員(特に実践家)の学会活動への参加や会員間交流促進、3)小児看護実践の質の向上、4)グローバル化促進、をテーマとして現状と課題、対応策について意見交換を行った。WGで検討した現状と課題をふまえて、今後具体的に進められる対応策(案)を提示した。

質疑応答 なし

【審議事項】

1. 選挙結果(2025-2028年度 評議員・監事の承認、2025-2026年度 理事の承認)(p.21)

西田みゆき選挙管理委員長が資料に基づいて報告を行った。

資料の理事・監事投票用紙有効送付数が異なっており、訂正があった。

質疑応答 なし

決議権のある評議員60名により挙手を行い、過半数の賛成で可決された。

理事長、副理事長の選出

定款施行細則第9条の8に基づき、理事長および副理事長の選出を行った。新理事、監事にて理事長・副理事長選出のための協議を行った。協議の結果、新理事長に江本リナ氏、副理事長に小川純子氏が推薦された。

理事長・副理事長の承認

決議権のある評議員60名により挙手を行い、過半数の賛成で可決された。

指名理事の選出

指名理事として、西田志穂氏、植木慎悟氏が推薦された。

指名理事の承認

決議権のある評議員60名により挙手を行い、過半数の賛成により可決された。

2. 2024年度決算(p.24)

1)収入の部

2024年度の会費収入合計は23,260,000円、当期収入合計は50,199,131円であった。前期繰越収支差額を合わせた収入は167,083,045円であった。

2)支出の部

2024年度の支出合計は47,965,622円、収支差額2,233,509円となった。次期繰越収支差額は119,117,423円であった。

3. 2024年度監査(p.32)

飯村監事、古谷監事にて、2025年5月14日に2024年度決算報告について監査を行い、会計帳簿、証拠書類を照合調査の結果、問題がなかったことが報告された。また、2024年4月1日から2025年3月31日までの事業年度の理事の職務執行について監査されたこと、方法およびその結果について報告された。

質疑応答 なし

2024 年度決算案、監査の承認

決議権のある評議員 60 名により挙手を行い、過半数の賛成で可決された。

4. 2025 年度事業計画案(p.33)

資料に基づき各委員より報告された。

1)学術集会

第 35 回学術集会は、以下の通り開催する。

会期：2025 年 7 月 5 日(土)・6 日(日)現地開催

開催地：仙台市

会長：塩飽 仁氏（東北大学大学院教授）

テーマ：“未来創世”ー子どもと家族の今と未来を支える看護の探求ー

2)総務（総務委員会）(p.33)

①理事会を年 5 回、社員総会を 1 回、会員集会を 1 回開催、総務委員会を理事会前に開催

②学会運営

③外部団体との連携活

3)学会誌発行・編集（編集委員会）(p.33)

①学会誌第 34 巻の編集・採択論文の J-STAGE 公開・電子配信

②学会誌第 34 巻の冊子発行

③学会誌掲載論文転載許諾審議等

④投稿規程・査読ガイドライン等の改訂の検討

⑤学術集会での委員会活動や学会誌の情報の周知

⑥学術集会講演集の医中誌登録

4)広報（広報委員会）(p.33)

①会議は適宜オンラインで開催

②ホームページの更新

③メールマガジンの配信

④ニュースレターの発行 Vol.65 発行(7～10 月頃)、Vol.66 発行(2026 年 3～5 月頃)

⑤コンテンツ利用申請についての検討

5)学術・研究推進（学術・研究推進委員会）(p.34)

①委員会は年 4 回とメール会議

②第 17 回(2025 年度)日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行う。

③第 16 回(2026 年度)日本小児看護学会研究助成

を選考および第 17 回(2027 年度)の広報

④第 10 回(2025 年度)国際発表助成の選考および第 11 回(2026 年度)の広報

⑤第 2 回(2025 年度)大学院生に対する研究助成を

選考および、第 3 回(2026 年度)の広報並びに公募

⑥第 35 回学術集会の企画、準備、運営の補助およ

び第 36 回、第 37 回学術集会の企画、準備の補助

⑦第 35 回学術集会においてパネル展示

6)小児看護に関する教育（教育委員会）(p.34)

①委員会は年 6 回開催

②小児看護スキルアップ研修「小児看護基盤コース」、「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」の e-learning の運営、「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」集合研修の実施(年 2 回)

③広報活動:第 35 回学術集会でのパネル展示およびスキルアップ研修に関する広報は学会ウェブサイト上で展開し、e-learning の施設申込が見込まれるところへフライヤーを送付する。

④e-learning 講義内容の更新作業

⑤第 35 回学術集会のテーマセッションの実施

⑥日本小児神経学会主催「第 23 回医療的ケア研修セミナー」の共催

7)小児看護に関する倫理検討（倫理委員会）(p.35)

①委員会は年 10～12 回、研究会議を 4～5 回実施

②委員会活動・委員会作成の指針活用への活動: JSCHN35 でのパネル掲示、JSCHN35 でのテーマセッションおよび研修会

③小児医療における倫理的課題解決に向けた活動:JSCHN35 のパネル展示、JSCHN35 でのテーマセッションの企画と開催、倫理委員会企画の研修会の企画と開催

④2024 年度の実態調査結果を分析し、我が国の小児看護実践における倫理的課題を具体的に示していく。

⑤日本臓器移植関連学会協議会へ参加

8)小児看護政策に関する検討（小児看護政策委員会）(p.36)

①委員会は 5 回程度、その他メール会議を実施

②小児看護に関する政策提言に向けて:入院に付き添う家族の課題や療育環境に関して提案する。

③高度実践看護の役割の明確化に向けて:第35回学術集会テーマセッションの実施

④健やか親子21(第2次)推進協議会等での参加団体としての活動

⑤日本医療事故調査支援センターへの協力

9)小児看護関連診療報酬検討(診療報酬検討委員会)(p.36)

①令和6年度診療報酬改定内容について周知に努め、実態の評価などに取り組む。

②令和8年度診療報酬改定要望書案にむけて、情報収集に努め、作成作業の準備を行う。

③診療報酬に関連した研究活動を実施

④第35回学術集会テーマセッションの企画準備

⑤看護系学会等保険連合、三保連等の診療報酬検討会に参加し、診療報酬のあり方を検討する。

⑥診療報酬等に関連する活動として、各種関連団体等の依頼があった場合は積極的に対応する。

10)国際交流(国際交流委員会)(p.37)

①委員会開催(5回)

②小児看護に関連した国際カンファレンスの紹介

③第35回学術集会でのパネル展示

④第35回学術集会川出富貴子国際発表助成対象者ポスター展示

⑤2025年度研修会開催

⑥Asia Pacific Paediatric Nurses Association (APPNA)理事会参加

APPNA から次期理事長に日本かオーストラリアから立候補してほしいとの依頼がきている。

⑦世界看護科学学会(WANS)加盟学会・団体代表者会議参加、学術集会開催時の代表者会議参加

11)災害対策(災害対策委員会)(p.37)

①委員会:対面1回/年、オンライン5回/年程度

②「災害対策マニュアル改訂版」の周知

③第35回学術集会テーマセッション開催

④日本小児救急医学会共催「小児周産期医療従事者向け災害医療研修会」の開催

⑤学会ホームページの災害関連情報の点検、更新

⑥災害支援に関する情報や委員会活動の広報

⑦災害支援事業助成の公募・選考

⑧関連団体との連携

12)利益相反管理(利益相反委員会)(p.37)

①COIに関連した疑義の受付と審議

②COIに関連した情報提供

③COI申告システムの整備

13)選挙管理(選挙管理委員会)(p.37)

①委員会の開催(3回)

②2024年度の評議員、理事・監事選挙の評価と次回に向けての課題抽出

③2026年度の理事選挙に向けての準備

④委員会申し合わせ事項の検討及び修正

質疑応答 なし

2025年度事業計画案の承認

決議権のある評議員60名により挙手を行い、過半数の賛成で可決された。

5. 2025年度予算案(p.38)

1)収入の部

会員会費23,150,000円を計上した。当期収入合計は51,775,000円を見込んでいる。

2)支出の部

当期支出合計は58,296,320円である。当期収支差額は6,521,320円を予定しており、次期繰越収支差額は110,362,594円を見込んでいる。

質疑応答

質疑1:会計報告に対し、2025年度の予算案で提示されている2024年度確定額(p.38)と収支決算書で提示されている2024年度確定額(p.24)が異なっている。学術集会の額が少なくなっているのではないかと質問があった。

回答:会計担当理事より以下の説明がされた。

p.38での予算(案)の学術集会収入支出額は転

記の際の記載ミスである。学術集会事業の準備金としての 200 万円を決算に示す上で、学術集会の収入と支出それぞれに 200 万円を加えた記載とすることを会計事務所よりアドバイスを受け、2024 年度決算書を作成している。

上記説明に対して、収支差額は間違いがないことを確認するとともに、説明に対して様々な意見が出されたが、収支差額に誤りがないことを確認し、以下のような結論となった。

本審議では、p.38 の 2024 年度確定額の学術集会の収入と支出および当期収入合計と当期支出合計を p.24 の決算書の額に修正する。学会準備金の提示方法については会計事務所と相談の上、今後の検討課題とする。

質疑 2: 学会運営に対し、毎年予算の繰り越しが多く、今後の活用方法が課題であり、多くの学会が学部生の学会参加費を補助しており、支援を検討してほしいという意見が出された。

回答: 次期理事に引き継ぎ、前向きに検討する。

2025 年度予算案の承認

2025 年度予算案に対し、決議権のある評議員 60 名により挙手を行い、上記質疑の内容を反映した内容に対して、過半数の賛成で可決された。

6. 2027 年度 第 37 回学術集会会長の承認

第 37 回学術集会会長として、江本リナ氏（日本赤十字看護大学教授）が理事会から推薦された。

質疑応答 なし

第 37 回学術集会会長の承認に対し決議権のある評議員 60 名により挙手を行い、過半数の賛成で可決された。

2026 年度 第 36 回学術集会会長挨拶

第 36 回学術集会会長 山下早苗氏（静岡県立大

学教授）から挨拶があった。テーマは「こどもの力を育むチームの Harmony」で、選定の背景、会場の紹介などがあり、協力および参加を呼びかけた。

2025 年度 第 35 回学術集会会長挨拶

第 35 回学術集会会長 塩飽 仁氏（東北大学大学院教授）より 2025 年 7 月 5 日(土)から 6 日(日)に仙台市で開催されることが案内された。

【閉会】

これをもって、すべての議題を終了し、一般社団法人日本小児看護学会 2025 年度社員総会を 15:19 に閉会した。

配布資料

一般社団法人日本小児看護学会 2025 年度社員総会(評議員会)

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名押印する。

2025 年 7 月 5 日

議長

野間 千香穂



議事録署名人

仁尾 かおり



議事録署名人

鎌田 佳奈美

